

新徴組屯所跡

新徴組屯所跡の標柱は、飯田橋商店街（目白通り）の「歴史プロムナード」にあります。

文久3年（1863年）2月、出羽国庄内藩出身の清河八郎は幕府に進言し、将軍警護を行う浪士隊（のちの新撰組）結成に参画しました。

しかし、清河の真の狙いは「幕府のために集めた浪士隊による尊王攘夷の実行」でした。そのため、幕府から危険人物としてみなされた清河は、江戸で暗殺されてしまいました。

幕府は行き場の失った浪士隊（※）の一部を、「新徴組」とし、清河の出身地である庄内藩の預かりとし、江戸市中の警備にあたらせました。新徴組は、江戸の不貞浪士を掃討し、尊王攘夷派志士とも勇猛果敢に戦いました。これにより江戸の治安は回復し、江戸市中警護が非常に行き届いたものとなりました。

慶応4年（1868年）3月、新徴組の組士とその家族約450名は、庄内藩の江戸引き上げとともに庄内に移住しました。庄内藩では組士とその家族を現在の鶴岡市湯田川温泉の宿屋と民家に分宿させ、組本部を隼人（はやと）旅館に置きました。隼人旅館前には新徴組本部として使用された跡の標柱が設置されています。

※ 京都に残った浪士組の一派が幕末の新撰組となります。

◆新徴組屯所跡

東京都千代田区飯田橋 1-9-7

JR「飯田橋駅」東口より徒歩5分

東京メトロ 東西線・有楽町線・南北線「飯田橋駅」出口A4より徒歩4分
都営地下鉄 大江戸線「飯田橋駅」出口A4より徒歩4分

◆新徴組本部跡

山形県鶴岡市湯田川乙 56

JR「鶴岡駅」より車で約20分

庄内空港より車で約30分



新徴組屯所跡標柱

飯田橋にある新徴組屯所跡の標柱は、現在、地下鉄改良工事のため一時撤去されています。工事完了後、再度設置される予定です。



鶴岡市湯田川温泉にある新徴組本部跡

作成：2019.9.6